

# 第2学年

# 生活科

## 単元名

# 大すき いっぱい わたしのまち

### 【手立て】

#### ①対象と繰り返し関わることのできる学習環境

○3回の探検の実施

- ・1回目はクラスで学校周辺の探検

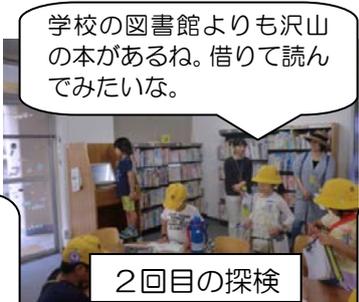
→鳩ヶ谷の町には様々な場所があり、多くの人がいることに目を向けさせる。

- ・2、3回目はグループで地域のお店や施設、公園等を探検

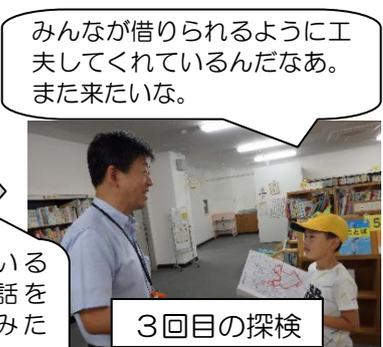
→同じ場所を二度訪れることで親しみを感じ、地域への愛着をもつことができるようになる。



建物の中ももっと探検してみたいな。



働いている人にも話を聞いてみたいな。



#### ②学び合い、気づきを深める学習活動

○探検して気付いたことを交流する場の設定

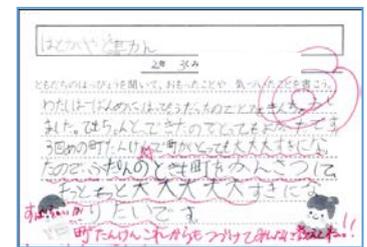
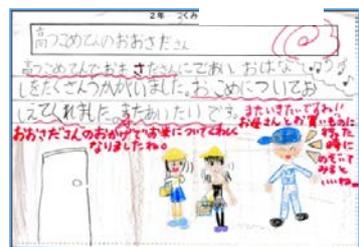
- ・気付いたことをカードに書いて発表して共有したり、地図上にカードを貼って地域との関わりを目で見感じたりできるようにする。



#### ③学びに向かう力を高める評価の工夫

○発見カードでの評価と指導

- ・気づきを価値付けたり、思いに共感したりするとともに、次の活動につなげるコメントを入れる。
- ・発見カードを冊子に貼ってまとめ、町への思いや発見が増えていくことを児童自身が感じ取れるようにする。



## 【研究協議】

### <課題について>

- ・再訪問となる探検先への興味を失わせないための、視点の支援や発問の工夫。
- ・探検先を選ぶ上で、より学習のねらいに迫れるための教師の工夫。
- ・子どもの思いや願いを大切にさせるための、教師による声かけ。

### <地域に愛着や親しみをもつために>

- ・繰り返し探検することにより、場所や人への思いを深めさせる。
- ・探検先で出会う人物の名前を覚え、呼名するなどして地域への思いを深める。
- ・多くの画像記録を用意する。  
→見落としていたことの発見や、無自覚だった気づきの自覚を促す。

### <気づきを引き出す教師の工夫>

- ・共感を引き出す。(比較させ、類似点や相違点を発見させる)
- ・助言を与える。(なぜ、何のためかを予想させる)
- ・情報提供をする。(視点の支援をし、より多くの気づきを促す)
- ・共に活動する。(何気ない児童のつぶやきを拾い、気づきを自覚させる)

全ての気づきを大いに認めたと上で、教師がねらいとする視点については、よい気づきをしている児童の考えを広げていくことが必要。

## 【指導講評】 川口市教育局学校教育部指導課指導主事 米澤 基宏先生

### <町探検の授業をするにあたって>

- ・町の様子だけでなく、天気や植物の様子も気づきの一つ。
- ・繰り返し探検することで、新たな気づきが生まれ、地域と子どものつながりも深まる。
- ・教師を介して子ども達の思考が活発になるとよい。教師が児童の発言を問い直すことで、周りの児童の思考を促し、活発な話し合いが生まれ、気づきが深まる。
- ・公園等の見学に行く際は、管理する業者や自治会に連絡を取ってから行くと、地域の協力も得られやすい。
- ・写真やICT機器を活用し、活動のイメージを持たせるとよい。

### 成果

- ・繰り返し探検することで、地域へ親しみをもつことができた。
- ・発見したことを伝え合い、地域のよさを共有することができた。

### 課題

- ・教師がつなぎ役となって児童間の交流を促し、主体的に思いを伝え合うことで、気づきを深めることができるようにしていく。
- ・児童の気づきを視覚的に呼び戻すために、視聴覚資料の効果的な活用の方法を検討していく。